

新国立劇場 2020/2021 シーズンオペラ

G. ヴェルディ

ドン・カルロ

Don Carlo

2021年5月20日(木)~29日(土)

会場:新国立劇場オペラパレス 2021年4月17日(土)前売開始



2014年公演より

スペイン宮廷を舞台にした愛と葛藤の歴史ドラマ。絢爛たるヴェルディの大作！

王子カルロと王妃エリザベッタの許されざる恋、父子の相克、嫉妬や友情などを重厚な音楽で描いた、ヴェルディ円熟期の壮大な歴史劇。カルロとロドリゴの友情の二重唱や、エリザベッタとカルロの激しい二重唱、エボリ公女の「ヴェールの歌」「むごい運命よ」、国王の悲痛なアリア「ひとり寂しく眠ろう」、エリザベッタの「世の空しさを知る方よ」など有名なアリアも目白押しです。マレッリ演出の舞台では、十字架と牢獄を思わせる壁に囲まれた空間が強大な権威のもとで逃れようのない運命のドラマを象徴します。

熱狂的支持を集めるカリニャーニの指揮のもと、ジパリ、キウリ、妻屋秀和、小林厚子ら最高峰の歌手が集結、オペラファン必見の公演です。

* 新型コロナウイルス感染症拡大予防対策を講じた新時代の生活様式に基づき、演出の一部を変更して上演します。

＜資料・写真のご請求、ご取材のお問い合わせ＞

新国立劇場 制作部オペラ 広報担当 高梨木綿子

Tel:03-5352-5733/Fax:03-5352-5709/E-Mail: takanashi_y2525@nntt.jac.go.jp

スペイン宮廷を舞台にした愛と葛藤の歴史ドラマ。絢爛たるヴェルディの大作！

ヴェルディ円熟期の傑作で、王子カルロと王妃エリザベッタの許されざる恋、カルロと父王フィリップ二世の相克、嫉妬と裏切り、友情などを重厚な音楽で描いた壮大な歴史劇。カルロとロドリゴの友情の二重唱や、エリザベッタとカルロの激しい二重唱など聴きごたえのある重唱が続き、エボリ公女の「ヴェールの歌」「むごい運命よ」、国王の悲痛なアリア「ひとり寂しく眠ろう」、エリザベッタの「世の空しさを知る方よ」など、コンサートで独立して歌われることも多い有名なアリアも目白押しです。

作品全体の象徴として十字架のイメージを中心に据えたマルコ・アルトゥーロ・マレツリ演出では、巨大な壁に囲まれた空間が強大な権威を表し、逃れようのない運命のドラマに観る者を惹き込みます。



カリニャーニ指揮のもと最高峰のヴェルディ歌いが集結

指揮を執るのは、情熱的で引き締まった演奏で絶大な信頼と熱狂的支持を集める名匠カリニャーニ。タイトルロールにイタリア・オペラを中心に華々しく活躍するテノール歌手ジュゼッペ・ジパリ、父フィリップ二世に日本が世界に誇るバス歌手妻屋秀和、ロドリゴには『紫苑物語』に主演し観客を圧倒した高田智宏、エリザベッタにはドラマティックで叙情的な歌唱で絶賛を集める小林厚子、エボリ公女には強靱な声とカリスマ性で世界を魅了するアンナ・マリア・キウリと、今聴きたい最高峰の歌手たちが集まります。オペラファンには見逃せないドリームキャストです。

<「ドン・カルロ」あらすじ>

【第1幕】16世紀中頃。スペイン王子ドン・カルロは、フランス王女エリザベッタと婚約し、愛し合っていたが、彼女はカルロの父スペイン王フィリップ二世へ嫁ぐことに。絶望に沈むカルロに、親友のポーザ侯爵ロドリゴは、圧政からの解放を望むフランドルの民衆を救うよう進言する。カルロはロドリゴのはからいでエリザベッタと会い、フランドル行きを許してもらえよう父に口添えしてほしい、と彼女に頼む。想いが溢れカルロはエリザベッタを抱きしめるが、彼女は腕をほどく。

【第2幕】己の美貌に絶対の自信を持つ女官エボリ公女はカルロを愛しているが、カルロに人違いで愛を告白され、彼がエリザベッタを愛していることを知り、怒って復讐を誓う。広場で異端者の火刑が始まろうというとき、フランドルの使者を連れたいカルロが現れ、王にフランドルの現状を訴える。拒絶する王に向かいカルロが剣を抜いたため、反逆のかどで投獄される。

【第3幕】妻に愛されない孤独に打ちひしがれるフィリップ二世。そこに来た宗教裁判長に、カルロとフランドルへの対応について意見を求めるが、宗教裁判長はロドリゴこそが脅威だと告げる。エボリの策略で、エリザベッタのカルロへの思いの証拠がフィリップ二世の手に渡る。王がエリザベッタを罵倒するのを見たエボリは己の行動を激しく悔い、王との愛人関係をエリザベッタに告白する。ロドリゴは、フランドルを扇動した罪を自分がすべて負って死ぬ、とカルロに別れを告げ、王の部下によって暗殺される。

【第4幕】サン・ジュスト修道院。フランドルへ発つカルロは、天上での再会を誓ってエリザベッタと別れる。フィリップ二世と宗教裁判長はカルロを捕らえようとするが、先帝カルロ五世の亡霊がカルロを墓に引き入れる。

<主要キャスト・スタッフプロフィール>

【指揮】パオロ・カリニャーニ

Paolo CARIGNANI

イタリア・ミラノ生まれ。ジュゼッペ・ヴェルディ音楽院で作曲、オルガン、ピアノを学ぶ。イタリアをはじめウィーン国立歌劇場、ベルリン州立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、バイエルン州立歌劇場、メトロポリタン歌劇場、リセウ大劇場、英国ロイヤルオペラ、パリ・オペラ座など世界各地で活躍。1999年から2008年までフランクフルト歌劇場の音楽総監督およびフランクフルト・ムゼウム管弦楽団の音楽監督を務めた。コンサートでは、ミュンヘン・フィル、ウィーン放送響、読売日本交響楽団などに客演しており、来日も多い。最近ではミラノ・スカラ座へ『アリババと40人の盗賊』でデビューしたほか、ポリショイ劇場『仮面舞踏会』、バイエルン州立歌劇場『シチリアの晩鐘』、ウィーン国立歌劇場『ナブッコ』『シモン・ボッカネグラ』、モネ劇場『ラ・ジョコンダ』、ハンブルク州立歌劇場『ナブッコ』、カナディアン・オペラ・カンパニー『ラ・ボエーム』、フランダース・オペラ『マクベス』、ポリショイ劇場『ドン・カルロ』などを指揮。新国立劇場では13年『ナブッコ』、17年『オテロ』、18年『アイーダ』、20年『ラ・ボエーム』を指揮している。



【演出】マルコ・アルトゥーロ・マレツリ

Marco Arturo MARELLI

スイス・チューリヒ生まれ。生地で学んだ後、ウィーン、ザルツブルク、ベルリンなどでキャリアを重ね、ウィーン・フォルクスオーパー『魔笛』で演出家デビュー。以来、ハンブルク州立歌劇場『ファルスタッフ』『ドン・ジョヴァンニ』、ウィーン国立歌劇場『無口な女』『夢遊病の女』、ザクセン州立歌劇場『トリスタンとイゾルデ』『カプリッチョ』などヨーロッパ各地の歌劇場で活躍。バロック・オペラから現代作品まで多彩な作品を取り上げており、ニコラウス・アーノンクール、ロジャー・ノリントンなど著名な指揮者から高く評価されている。新国立劇場では2005年『フィデリオ』、06年『ドン・カルロ』を演出している。

**【フィリップ二世】妻屋秀和**

TSUMAYA Hidekazu

東京藝術大学卒業、同大学大学院オペラ科修了。94年~01年ライブツィヒ歌劇場、02年~11年ワイマール・ドイツ国民劇場専属歌手。今までにベルリン・ドイツ・オペラ、ベルリン州立歌劇場、ライン・ドイツ・オペラ、スコティッシュ・オペラなどに出演。国内でも多くの劇場で活躍。これまでに出演したオペラは60余作、演じた役は80役、公演数は900を超え、18年にはオペラデビュー30周年を迎えた。新国立劇場では『ドン・カルロ』宗教裁判長、『マノン・レスコー』ジェロント、『ラインの黄金』ファールト、『ファルスタッフ』ピストーラ、『魔笛』ザラストロ、『ローエングリン』ブラバントの貴族IV、『セビリアの理髪師』ドン・パジリオ、『カルメン』スニガ、『ルチア』ライモンド、『オテロ』ロドヴィーゴ、『アイダ』ランフィス、『フィデリオ』ロッコ、『タンホイザー』領主ヘルマン、『ドン・ジョヴァンニ』騎士長、『トゥーランドット』ティムールなど数多く出演。今シーズンは『夏の夜の夢』クインス、『フィガロの結婚』バルトロ、『イオランタ』ルネに出演、7月には『カルメン』スニガにも出演予定。二期会会員。

**【ドン・カルロ】ジュゼッペ・ジパリ**

Giuseppe GIPALI

アルバニア出身。2003年、プラシド・ドミンゴの「オペリア」コンクール第2位を獲得し、同年から国際的なキャリアが始まる。ベルカントからヴェリズモ、またフランス・オペラもレパートリーとする。『ラ・ボエーム』ロドルフォ、『蝶々夫人』ピンカートン、『トスカ』カヴァラドッシ、『オテロ』を除くヴェルディ作品やドニゼッティ、『マノン』『ウェルテル』『ファウスト』『ファウストの劫罰』『ホフマン物語』『真珠採り』などをレパートリーに、ミラノ・スカラ座、ローマ歌劇場、フェニーチェ歌劇場、ヴェローナ野外音楽祭、ナポリ・サンカルロ歌劇場、英国ロイヤルオペラ、ウィーン国立歌劇場、シヤトレ座、パリ・オペラ座、トゥールーズ・キャピトル劇場、バルセロナ・リセウ大劇場、サンフランシスコ・オペラ、フィレンツェ歌劇場、ボローニャ歌劇場、バーリ・ペトルツェッリ劇場、オーストラリア・オペラなど世界中の歌劇場に出演。最近では、バーリ・ペトルツェッリ劇場、パルマ・ヴェルディ・フェスティバル、北京・国家大劇院『イル・トロヴァトーレ』マンリーゴ、バーリのシーズン開幕公演『シモン・ボッカネグラ』ガブリエーレ・アドルノ、フィレンツェ歌劇場、上海大劇院『リゴレット』マントヴァ公爵などに出演している。新国立劇場初登場。

**【ロドリゴ】高田智宏**

TAKADA Tomohiro

国立音楽大学音楽学部声楽科卒業、二期会オペラ研修所を経て、国立音楽大学大学院音楽研究科声楽専攻(ドイツ歌曲)を首席で修了。2005年第4回静岡国際オペラコンクール「三浦環特別賞」を受賞。06年第4回長久手国際オペラ声楽コンクール優勝。03年より小澤征爾音楽塾オペラプロジェクトIV~VIIに参加し、ロッシニ『セビリアの理髪師』フィガロのカヴァーキャストなどを務める。07年から20年までよりキール歌劇場専属歌手として『ニュルンベルクのマイスター・ジンガー』ベックメッサー、『エウゲニ・オネーギン』タイトルロール、『ドン・カルロ』ロドリゴ他、多数の主役を務め主に海外を拠点に活躍中。20年9月よりカールスルーエのバーデン州立歌劇場専属歌手。近年、国内でも佐渡裕プロデュースオペラに主役で多数出演、15年の『椿姫』ジェルモン役では絶賛を博す。これまでウーヴェ・ハイルマン、秋葉京子、野崎靖智の各氏に師事。17年12月、ドイツ・シュレースヴィヒ=ホルシュタイン州(キール市)から宮廷歌手の称号を授与された。新国立劇場では19年『紫苑物語』宗頼役で初登場、圧倒的な歌唱と存在感で国内外のメディアから高く評価された。

**【エリザベッタ】小林厚子**

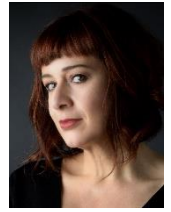
KOBAYASHI Atsuko

東京藝術大学大学院オペラ科修了。文化庁在外派遣によりイタリアにて研修。藤原歌劇団にデビュー後、同歌劇団『蝶々夫人』でタイトルロールデビュー。首都オペラ『フランチェスカ・ダ・リミニ』フランチェスカ、『マクベス』マクベス夫人、西本智実プロデュース『蝶々夫人』、フィオーレオペラ『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・アンナ、藤原歌劇団『ナヴァラの娘』アニタなどに出演している。イタリアのトラエッタ・オペラ・フェスティバルではトラエッタ劇場、クルチ劇場の『蝶々夫人』に出演を重ねる。新国立劇場では高校生のためのオペラ鑑賞教室『蝶々夫人』『トスカ』でタイトルロールに出演。18/19シーズン『トスカ』では、鑑賞教室公演翌日の千秋楽公演に急遽出演し、シーズンの千秋楽を見事に飾った。本年3月の『ワルキューレ』ではジークリンデで絶賛され、新境地を拓いたばかりである。また、『アイダ』タイトルロール、『アンドレア・シェニエ』マッダレーナ、『オテロ』デズデモーナ、『ドン・カルロ』エリザベッタ、『イエヌーファ』タイトルロール、『タンホイザー』エリーザベトなどドラマティックソプラノの難役でカヴァーを務め、公演の成功に貢献している。藤原歌劇団団員。



【エボリ公女】アンナ・マリア・キウリ**Anna Maria CHIURI**

パルマのボーイト音楽院を卒業し、フランコ・コレツリのもとで声楽の技術を完成させた。イタリア及びヨーロッパの主要劇場で活躍する、現在最も重要なメゾソプラノのひとり。レパートリーは幅広く、パレルモ・マッシモ劇場『ラインの黄金』『ワルキューレ』『フリッカ』、トリノ王立歌劇場、ミラノ・スカラ座『ドン・カルロ』エボリ公女、『エレクトラ』クリテムネストラ、ボルツァーノ、モデナなどで『サロメ』ヘロディアス、『アイダ』アムネリス、ワロニー歌劇場『仮面舞踏会』ウルリカ、フェニーチェ歌劇場『イル・トロヴァトーレ』、フィレンツェ歌劇場『ばらの騎士』アンニーナ、トリノ王立歌劇場『アドリアーナ・ルクヴルール』、マチェラータ音楽祭『運命の力』などに出演。最近では、スカラ座、フィレンツェ歌劇場『三部作』、ザルツブルク音楽祭の『サロメ』新演出のヘロディアス、ヴェローナ音楽祭『アイダ』アムネリスに出演。今後の予定にヴェローナ野外音楽祭『アイダ』アムネリス、ザルツブルク音楽祭『イントレランツァ 1960』などがある。新国立劇場には 2002 年『カルメン』『イル・トロヴァトーレ』以来の登場。

**【宗教裁判長】マルコ・スポッティ****Marco SPOTTI**

パルマ生まれ。生地のボーイト音楽院修了後、パルマ王立歌劇場『仮面舞踏会』でデビュー。その後一流歌劇場への出演が続き、ミラノ・スカラ座、英国ロイヤルオペラ、シャンゼリゼ劇場、バイエルン州立歌劇場、ローマ歌劇場、フェニーチェ歌劇場、メトロポリタン歌劇場、リセウ大劇場、ジュネーヴ大劇場、パルマ王立劇場、トリノ王立劇場、ボローニャ歌劇場、ロッシェニ・オペラ・フェスティバルなどで『アイダ』ランフィスとエジプト国王、『トゥーランドット』ティムール、『ギヨーム・テル』ワルター、『アンナ・ボレーナ』エンリーコ8世、『ドン・カルロ』宗教裁判長、『セビリアの理髪師』バジリオ、『イル・トロヴァトーレ』フェルランドなどに出演。最近では、ボローニャ歌劇場『イル・トロヴァトーレ』フェルランド、ヴァレンシア・ソフィア王妃芸術宮殿『リゴレット』スパラフチーレ、ベルギー王立ワロニー歌劇場『清教徒』ジョルジオ、リセウ大劇場『ルイザ・ミラー』ヴルム、フェニーチェ歌劇場『ドン・カルロ』宗教裁判長などに出演。新国立劇場では 19/20 シーズン『セビリアの理髪師』バジリオに出演した。



新国立劇場 2020/2021 シーズンオペラ
G.ヴェルディ **ドン・カルロ**
Giuseppe VERDI/Don Carlo
全4幕〈イタリア語上演／日本語及び英語字幕付〉

【公演日程】2021年5月20日(木)18:30／23日(日)14:00／26日(水)14:00／29日(土)14:00

【会場】新国立劇場 オペラパレス

【チケット料金】S:24,200円・A:19,800円・B:13,200円・C:7,700円・D:4,400円・Z:1,650円

【前売開始】2021年4月17日(土)

※チケット発売日は当初発表から変更となりました。

※新型コロナウイルス感染症拡大予防対策を講じた新時代の生活様式に基づき、演出の一部を変更して上演します。

※ドン・カルロ役に出演を予定しておりましたルチアーノ・ガンチは、本人の都合により出演できなくなりました。代わって、ジュゼッペ・ジパリが出演いたします。エリザベッタ役に出演を予定しておりましたマリーナ・コスタ＝ジャクソンは、降板の申し出がありましたため、代わって、小林厚子が出演いたします。フィリッポ二世役に出演を予定しておりましたミケーレ・ペルトウージは、健康面の不安から来日を取りやめることとなりました。代わって、妻屋秀和が出演いたします。

指揮	パオロ・カリニャーニ	フィリッポ二世	妻屋秀和
Conductor	Paolo CARIGNANI	Filippo II	TSUMAYA Hidekazu
演出・美術	マルコ・アルトゥーロ・マレリ	ドン・カルロ	ジュゼッペ・ジパリ
Production and Set Design	Marco Arturo MARELLI	Don Carlo	Giuseppe GIPALI
衣裳	ダグマー・ニーファント＝マレリ	ロドリゴ	高田智宏
Costume Design	Dagmar NIEFIND-MARELLI	Rodrigo	TAKADA Tomohiro
照明	八木麻紀	エリザベッタ	小林厚子
Lighting Design	YAGI Maki	Elisabetta di Valois	KOBAYASHI Atsuko
再演出	澤田康子	エボリ公女	アンナ・マリア・キウリ
Revival Director	SAWADA Yasuko	La Principessa d'Eboli	Anna Maria CHIURI
舞台監督	高橋尚史	宗教裁判長	マルコ・スポッティ
Stage Manager	TAKAHASHI Naohito	Il Grande Inquisitore	Marco SPOTTI
		修道士	大塚博章
		Un frate	OTSUKA Hiroaki
		テバルド	松浦 麗
		Tebaldo	MATSUURA Rei
		レルマ伯爵／王室の布告者	城 宏憲
		Il Conte di Lerma/Un araldo reale	JO Hironori
		天よりの声	光岡暁恵
		Una voce dal cielo	MITSUOKA Akie

合唱指揮	三澤洋史
Chorus Master	MISAWA Hirofumi
合唱	新国立劇場合唱団
Chorus	New National Theatre Chorus
管弦楽	東京フィルハーモニー交響楽団
Orchestra	Tokyo Philharmonic Orchestra

芸術監督	大野和士
Artistic Director	ONO Kazushi

公演情報 WEB サイト <https://www.nntt.jac.go.jp/opera/doncarlo/>

【チケットのご予約・お問い合わせ】新国立劇場ボックスオフィス TEL:03-5352-9999 (10:00～18:00)
新国立劇場Webボックスオフィス <http://pia.jp/nntt/>

【チケット取り扱い】チケットぴあ、イープラス、ローソンチケットほか

* 乙席 1,650円:公演当日朝 10時より、新国立劇場 Web ボックスオフィスほかで販売。1人1枚。電話予約不可。

* 当日学生割引(50%)、ジュニア割引、高齢者割引、障害者割引、学生割引など各種割引あり。* 未就学児入場不可。

* 新国立劇場における新型コロナウイルス感染症拡大予防への取り組みと主催公演ご来場の皆様へのご願い
https://www.nntt.jac.go.jp/release/detail/23_017576.html

新国立劇場 WEB サイト <https://www.nntt.jac.go.jp> 東京都渋谷区本町 1-1-1 京王新線新宿駅より1駅、初台駅直結。

本公演は、レパートリー演目です。宣材として過去の上演の舞台写真をご使用いただけます。



【1】



【2】



【3】



【4】



【5】



【6】



【7】



【8】